

日本ハルカライオンは、2021年度を最終年度とする中期経営計画を始動した。グループ総合力発揮のため、国内事業再編や研究開発体制の再構築など経営最適化を重点施策に掲げる。成長戦略としては、自動車部品など受託加工を担う加工事業でグローバル展開の強化策とする。18年度実績で売上高の35%を占める同事業につき、事業

戦略を練る専任部署を設け、売上高12%増を目標とする。グループ全体では最終年度に売上高133億5000万円を目標とし、一時的に低下した収益率改善も図る。前中計では2力年にわたって売上高営業利益率15%台後半を達成したが、18年度に原材料費高騰やグループ会社合併費の発生などを受けて14%台に低下したと総括。

新中計ではグローバル成長戦略とグループ経営最適化を重要施策に掲げ、収益力強化に取り組み。各事業部の18年度の売上規模は薬品が476億円、装置が305億円、加工が460億円。成長戦略では加工事業の海外展開強化を図り、「グローバル加工事業戦略室」を設置する予定。同事業部における最終年度の売上目標は515億円を計画

リバネスと資本業務提携

MI-6 技術ソリューション共同開発

幸弘CEOと資本業務提携したと発表した。今後は、MI-6はリバネス傘下のケムカレージ研究所と連携し、材料メーカー、アカデミアに対する技術ソリューションを共同開発・提案する。

MI-6がリバネスを引受先とする第三者割当増資を実施した。調達した資金額は非開示。リバネスは2017年に化学分野に関する研究開発を推進することを目的として、熊本大学「産

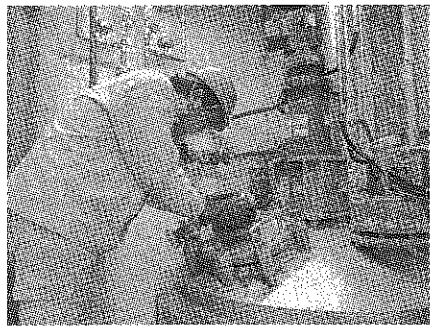
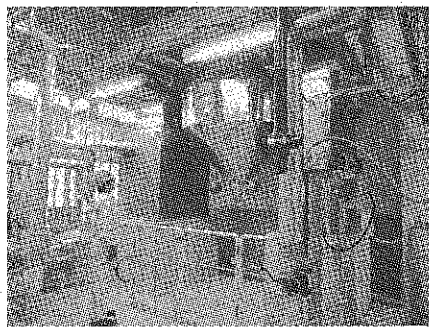
業ハルカライオンが、分析、測定など実験系を組み合わせさせたワンストップの研究コンサルティング事業を推進している。

今回の資本業務提携で両社は技術ソリューションを共同開発する。具体的にはMI-6が有するMI技術を活用した新素材探索手法と、ケムカレ

を調べる回

省エネ旅客機・B787採用の炭素繊維複合材料(CFRP)向けエポキシ樹脂を受託製造し脚光を浴びた小西化学工業(和歌山市)小西弘矩社長は、スーパーエンジニアリングプラスチック用原料、ジヒドロキシフェニルスルホン(DHPS)の最大手でもある。その和歌山屈指の有力企業が新事業創出を目指し、本社工場に昨年新設した開発棟の内部を本紙に公開した。

小西化学工業・開発棟



無機材料の製造も視野に入れた開発棟。棟内の最新鋭の乾燥機(上)と心臓部である反応設備

視察レポート

という新たな時代の幕が、開いた今、当社の目指す未来の方向を見て欲しかった。小西社長は公開し

新事業創出の中核に

理由をこう説明した。開発棟鉄骨5階建て、建築総面積200平方メートル。今春から次世代シリコン樹脂であるポリシルセスキオキサン(PSQ)を製造開始した。新棟のトップバッターとなったPSQについて小西社長は「電子基板の回路の絶縁や封止には、無機シリコン化合物が使われているが、PSQは柔軟性や優れた成形性、反応性などの有機材料の特徴と、耐熱・耐候性や寸法安定性といった無機材料の特性を併せ持

次世代シリコン樹脂「PSQ」

今春から製造開始

ち、既存の封止材を代替する大きな可能性を秘めている」と説明する。スルホン化など有機合成のハイテクが生命線である同社が「無機」を手がける理由について「固定義念から解き放たれ、奥深い化学の世界を縦横無尽に渉猟するポータル志向が次世代のファイブケミカルメーカーには不可欠だと確信している。新棟には当然、クリーンルーム(清浄度クラス10万)を設けてコンタミレス対策を徹底し、無機専用のラインも導入した(小西社長)。

1階は乾燥エリアとクリーンルーム、2階は作業スペース、3階は晶析

分離、そして4・5階には反応関連の機器を置き、クリーンで超効率的なレイアウトは将来を視野に入れたものという。CFRP用エポキシ樹脂の量産拠点として13年建設の福井工場(福井県坂井市)には25億円を投じ、DHPSの新工場が完成。IoT(モノのインターネット)などを活用したスマートファクトリー構想にも着手した。小西社長は「開発棟で新事業を醸成し、福井で量産するビジネスモデルを軌道に乗せたい。PSQの目標は年商10億円(小西化学の売上高は年50億円)」と語った。(高井肇)

総合 化学・行政・環境

